

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第5回) 議事次第

日 時：令和5年1月23日(月) 15:00～16:30

場 所：ホテルグランヒルズ静岡(5F センチュリールーム)

1 開会

2 第4回準備委員会の概要 …………… 【資料1】

3 文部科学省訪問結果(報告) [非公開] …………… 【資料2】

4 審議事項 [非公開]

(1) 養成する人材像(案) …………… 【資料3】

(2) 研究分野に関する基本方針(案) …………… 【資料4】

(3) 附属病院に関する基本方針(案) …………… 【資料5】

5 閉会

**資 料**

議事次第

委員名簿

資料1 第4回準備委員会の概要

① 第4回準備委員会 審議結果・主な意見

② (仮称) 医科大学院大学 基本理念・基本方針(案)

③ 基本構想の策定に向けた審議状況の整理

④ (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案)

資料2 文部科学省訪問結果(報告)

資料3 養成する人材像(案)

資料4 研究分野に関する基本方針(案)

資料5 附属病院に関する基本方針(案)

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

主 な 役 職 等	氏 名	出 欠	参加方法	
			会場	WEB
静岡県立病院機構 理事長	田中 一成 【委員長】	○	○	
慶応義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科 教授 静岡社会健康医学大学院大学 副理事長 (将来構想担当)	伊藤 裕	○		○
京都大学理事・副学長 (プロボスト)	岩井 一宏	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事 (教育研究担当) 兼副学長	浦野 哲盟	○	○	
静岡県立大学 特別顧問	木苗 直秀	○	○	
一般社団法人静岡県医師会 副会長	齋藤 昌一	○		○
株式会社静岡銀行 取締役会長 一般社団法人静岡県経営者協会 会長	中西 勝則	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事長兼学長	宮地 良樹	○	○	
浜松医科大学 理事 (企画・評価担当) 兼副学長	渡邊 裕司	○		○
公益社団法人静岡県看護協会 会長 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会 会長	渡邊 昌子	○	○	

出席委員 10 7 3

全委員数 10

## 第 4 回（仮称）医科大学院大学準備委員会 審議結果・主な意見

## 【基本理念・基本方針】

(審議結果)

- ・ 基本方針 3 は「医療機関を基盤とした横断的、融合的な研究の推進」とする。
- ・ 基本方針 5 は「国際的な視野の涵養と海外との研究交流の推進」とする。

## 【想定する研究分野】

(審議結果)

- ・ 委員意見を反映の上、第 5 回委員会で引き続き検討する。

(主な意見)

田中 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床医学を目指す医師が学生の中心</li> <li>・ 医学部がないことが優位に働く、特色ある研究分野が必要</li> <li>・ 医療統計学は日本の医学に欠けている研究分野</li> <li>・ 細分化している内科系は取り組むべき研究分野</li> <li>・ 浜松医大と連携して本県の医療を支える体制が望ましい。</li> <li>・ 難聴関連は社会健康医学と連携して進める研究分野の一つ</li> <li>・ 県大薬学部など、研究分野ごとの連携も進める。</li> <li>・ 基礎的な医学研究には様々な施設・設備投資が必要であるため、取組が困難な分野がある。</li> </ul>
伊藤 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NBM (Narrative Based Medicine) という「個人の物語」に着目した医療は、県民の“幸せ”や“生きがい”を考える新たな方向性</li> <li>・ 災害や気候、生活環境などから生じる問題も注目されている。</li> <li>・ 医工連携やフードサイエンスなど、様々な分野、機関との連携を想定した研究分野は特徴になる。</li> <li>・ 研究のシステム全体をどう形づくるかが重要</li> </ul>
岩井 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「健康長寿」の切り口で浜松医大を補完できる分野に取り組む。</li> <li>・ 食事と疾患の関係など、栄養学は長寿に関し重要な研究分野</li> <li>・ 病院を基盤とすることで診療科の壁が低くなり、“がん”や“血管”などの項目別に研究テーマをつくる形になる。</li> <li>・ 実験室レベルのインフラを持つ県内他大学と連携した分野と、県内の医師不足分野におけるデータを中心とした新たな分野を合わせた研究分野の作り方が考えられる。</li> </ul>
浦野 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「研究分野に関する基本的な考え方」には社会健康医学に関するキーワードも入れた方が理解しやすい。</li> </ul>

木苗 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲かつテーマごとの連携ができる研究体制が望ましい。</li> </ul>
中西 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学以外の幅広い分野を含めた研究分野をグループ化できれば特徴になる。</li> </ul>
宮地 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学は1 大学 2 研究科として、医学研究科と社会健康医学研究科を設置することが想定される。</li> <li>・ 我が国が強化すべき大規模臨床研究には医療統計学のスキルが必須であり、医科大学院大学にも必須のジャンル</li> <li>・ 「研究分野のイメージ」は総花的で抽象的。文科省に特徴や具体的な目的を明示できるよう、他との差別化、具体化が必要</li> <li>・ 医療機関を基盤とする場合、「臨床を志向した大学院」であることを表現すべき。</li> <li>・ 「研究と臨床の両方の能力を備えた Physician scientist を育成する」といった表現が必要</li> </ul>
渡邊裕 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「研究分野の概要」で「医療統計学」が「疫学」や「行動医科学」と同様の独立した括り方になっているが、すべての分野を包含していることを表現すべき。</li> <li>・ 浜松医大はすべての研究分野を網羅することが使命。免疫系統などの医師の養成にはまだ強化の余地がある。</li> </ul>
渡邊昌 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ものづくりなどで産官学が連携して研究することは本県の独自性になり得る。</li> <li>・ 災害に関する医学に取り組めば、本県にある医科大学院としてのオリジナリティになる。グループ化する場合は“感染”や“炎症”、公衆衛生などを含めることが考えられる。</li> </ul>

## 【「養成する人材像」の要点】

(審議結果)

- ・ 委員意見を反映の上、第5回委員会で引き続き検討する。

(主な意見)

田中 委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 養成する人材像には医師だけでなく“医療人”という言葉が必要</li><li>・ 臨床医は研究者でもあり、明確な境目はない。</li></ul>
伊藤 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 養成する人材像として「リサーチマインドを持った優れた“医師”」と明示すれば特徴になる。</li><li>・ 本学が「優れた“医学者”」を養成すべきかは、よく検討する必要がある。</li><li>・ 「医療を支える人材」という趣旨で“医療人”も考えられる。</li></ul>
岩井 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 入学者を医師に限定することは制度上困難</li><li>・ 医師であり研究者である Physician Scientist の養成が重要</li><li>・ 医師以外を含む「医療分野のリーダー」という人材像が考えられる。</li></ul>
浦野 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「医療分野のリーダー」とすれば、医師と医師以外の異なる視点から「健康長寿」という同じ目的を目指すことができる。</li></ul>
宮地 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本学が養成する人材像には、「リサーチマインドを持つ臨床専門医」、「研究マインドを持った専門医」、「両方を兼ね備えた Physician scientist」などの方向性が合致する。</li></ul>

## 【附属病院に関する基本方針】

(審議結果)

- ・ 「地域医療」「連携交流」は、附属病院でなく医科大学院大学の機能とする。
- ・ 手続き面など、文科省や厚労省の意向を把握する。
- ・ 委員意見を反映の上、第5回委員会で引き続き検討する。

(主な意見)

田中 委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「地域医療」や「連携交流」に関する機能は、附属病院だけでなく医科大学院大学全体の必要性を説明するために重要</li><li>・ 手続き面など、文科省や厚労省の意向を把握した上で進めることが必要</li></ul>
岩井 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「地域医療」や「連携交流」を附属病院が主体となって担うことは困難であり、医科大学院大学の機能として考えるべき</li></ul>
宮地 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 開設時点で附属病院が必須なのか、あるいは設置認可に有利に働くのか。附属病院の設置には多くの課題があるため、行政として今から考えていくことが必要</li><li>・ 本県医療の弱点領域の全県的な強化に向け、「専門の教員が本県で研究を進めることで医師も集まる」というスキームが必要</li></ul>

## 【取得できる学位、入学定員の方向性】

(審議結果)

- ・ (仮称) 医科大学院大学において授与する学位は「博士(医学)」とする。
- ・ 入学定員は他の医学系大学院を参考に引き続き検討する。

(主な意見)

田中 委員長	・ 入学定員を多くする場合、教官も多く必要になる。比較的小規模の方がよい。
渡邊裕 委員	・ 県の医師確保対策における奨学金利用者などが主な入学対象者になるだろう。

## 【基本構想の策定に向けた審議状況の整理】

(主な意見)

田中 委員長	・ 文科省や厚労省の考え方を取り入れて構想を策定する必要があるため、県は各省の意向を把握すること。
-----------	---

---

(仮称) 医科大学院大学 (医学研究科) 基本理念・基本方針 (案)

---

○ 基本理念

健康長寿社会の実現に向け、新たな医療につながる、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探求するとともに、国際的な視野を持ち、複数領域の臨床技術と研究能力を高め続ける医師を養成することを通じ、地域医療水準の向上を目指す。

○ 基本方針

基本理念の実現に向けた基本的な活動方針を以下のとおり定める。

1 新たな医療につながる学問の探求

学内をはじめ、他の大学や研究機関等との連携の下、臓器や専門領域といった、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探求することにより、時代の要請に応じた新たな医療を創出する。

2 複数領域の臨床技術・研究能力を高め続ける医師の養成

関連する複数の専門領域において、生涯にわたり、患者ケアのための臨床技能と、発見した課題の解決に向けた研究能力を、自律的に高め続ける医師を養成する。

3 医療機関を**基盤**とした横断的、融合的な研究の推進

医療機関を**基盤**として、臓器等の枠を越え、横断的、融合的に研究を推進できる体制を構築する。

4 地域医療水準向上への貢献

研究機関をはじめ、医療機関、教育機関など、様々な地域資源を活かした人的交流や、研究連携、研究成果の臨床現場への還元などを通じ、地域医療水準の向上に貢献する。

5 国際的な視野の**涵養**と**海外**との研究交流の推進

研究課題の解決に向け、国際的な視点で最先端の研究に取り組むことのできる医師を育成する。また、東アジアの日本という視点に立ち、海外の大学、研究機関等との共同研究を意欲的に推進する。

## 基本構想の策定に向けた審議状況の整理

### I (仮称) 医科大学院大学の必要性

#### 1 医師確保に向けた本県の主な取組

- (1) ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ
- ・ 医学修学研修資金 (奨学金)
  - ・ 奨学金被貸与者の配置調整
  - ・ 医学部 (医学科) 進学者の増加に向けた取組
- (2) 専門研修の指導医確保
- ・ 指導医を招聘する病院への支援
  - ・ 研修指導体制強化に向けた寄附講座の設置

#### 2 医師数等の現状

- (1) 県内医師数の現状
- ・ 病院勤務医の不足
  - ・ 地域間の偏在
  - ・ 診療科間の偏在
- (2) 本県の医師養成の現状
- ・ 人口 10 万人当たり医学部定員 全国 46 位
  - ・ 人口 10 万人当たり医学系大学院定員 全国 46 位
  - ・ 医学部進学者が人口規模からの想定水準の 7 割

⇒ **医師 (特に病院勤務医) の確保、地域間・診療科間の偏在解消が必要**

#### 3 医師確保と偏在解消に向けて必要な取組

- (1) 医師確保と県内定着の促進
- ・ 若手医師の志向に沿ったキャリア形成 → 専門医資格を取得できる研修環境の充実
  - ・ ホターメイト型のサポート・キャリア支援 → 学位を取得しやすい研究環境の整備
  - サポート及びキャリア形成支援機能の強化
- (2) 地域間・診療科間の偏在解消
- ・ 地域の医療機関への医師派遣 → 医師派遣機能の強化
  - ・ 指導人材の確保 → 指導医養成体制の強化

#### 4 (仮称) 医科大学院大学の必要性

- (1) 若手医師のサポート・キャリア形成支援や、地域の医療機関への医師派遣等に当たっては、医学部・医学系大学院が大きな役割を担っている。

⇒ **(仮称) 医科大学院大学の設置が医師確保と偏在解消に向けた最適な解決策**

- ・ 教員の配置
- ・ 医師集積拠点の確保

#### (2) (仮称) 医科大学院大学に期待する効果

- 臨床と研究が持続的に両立できる環境の提供
- 県内医師のサポート及びキャリア形成支援機能の強化
- 医師集積拠点の構築による医師派遣機能の強化
- ・ 県内医師の資質向上
- ・ 医学部医学科への進学者増加
- ・ 研究成果の地域への還元
- ・ 健康寿命の延伸に向けた研究の発展

## II (仮称) 医科大学院大学が目指す方向性

### 1 基本理念

健康長寿社会の実現に向け、新たな医療につながる、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探究するとともに、国際的な視野を持ち、複数領域の臨床技術と研究能力を高め続ける医師を養成することを通じ、地域医療水準の向上を目指す。

### 2 基本方針

- (1) 新たな医療につながる学問の探求
- (2) 複数領域の臨床技術・研究能力を高め続ける医師の養成
- (3) 医療機関を基盤とした横断的、融合的な研究の推進
- (4) 地域医療水準向上への貢献
- (5) 国際的な視野の涵養と海外との研究交流の推進

### 3 想定する研究分野（継続検討）

#### (1) 研究分野に関する基本的な考え方

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| ①既存の枠にとらわれない研究      | ④医師の臨床技術・研究能力の向上に資する研究  |
| ②ヒューマンサイエンスを中心とした研究 | ⑤時代や地域の課題解決に向けた先見性のある研究 |
| ③地域の医療水準向上に資する研究    | ⑥社会健康医学を取り入れた研究         |

#### (2) 研究分野の方向性

- ・ 臨床応用を志向した、今後の発展が期待される研究分野
- ・ 「健康長寿」を切り口とし、医学と社会健康医学が連動した研究分野
- ・ 本県の特性を活かす、他大学や研究・医療機関、産業界と連携した研究分野

### 4 養成する人材像（継続検討）

健康長寿社会の実現に向け、臨床技能と研究能力を高め続ける、地域の医療分野のリーダーとなり得る“医療人”を養成

### 5 取得できる学位

博士（医学）

### 6 (仮称) 医科大学院大学の設置方法（継続検討）

#### (1) 設置方法、研究科・専攻の構成

基本理念の実現に向け最も適した設置方法により、医学研究科医学専攻を設置

#### (2) 入学定員

浜松医科大学をはじめ、他の医学系大学院を参考に、引き続き検討

### 7 附属病院に関する基本方針

医学部を基盤としない(仮称)医科大学院大学において、県立病院の機能を最大限活用しながら、高度先進・専門医療を担い、小児・周産期、精神、がんなどの特徴的な分野を含む大規模な病床を持つ、質・量ともに充実した附属病院を整備

⇒ **魅力的な教育・研究環境と高度先進・専門的な臨床機能を一体的に確保**

## (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案)

年度	回次	審議・報告事項	基本構想の項目				
			目指す方向性 (基本理念・方針)	養成する人材像	研究分野	附属病院	学位、入学定員
R3	第1回 3/29	(仮称) 医科大学院大学について意見交換					
R4	第2回 5/24	目指す方向性(基本理念・基本方針)について意見交換	意見交換				
	第3回 8/31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目指す方向性(基本理念・基本方針)〈暫定案〉について意見交換</li> <li>・ 想定する研究分野について意見交換</li> <li>・ 附属病院の方向性(確認)</li> </ul>	暫定案 意見交換		意見交換	意見交換 確認	
	第4回 11/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取得できる学位、入学定員の方向性について意見交換</li> <li>・ 「養成する人材像」の要点(案)について意見交換</li> <li>・ 想定する研究分野〈暫定案〉について意見交換</li> <li>・ 附属病院に関する基本方針(案)について審議</li> </ul>					意見交換
				意見交換	意見交換	基本方針(案) 審議	
				意見交換	意見交換	基本方針(案) 審議	
	第5回 1/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成する人材像(案)について意見交換(非公開)</li> <li>・ 想定する研究分野(案)について意見交換(非公開)</li> <li>・ 附属病院に関する基本方針(案)について審議(非公開)</li> </ul>		意見交換	意見交換	基本方針(案) 審議	
第6回 3/20	準備委員会審議結果の取りまとめ						
R5 以降	第7回～	基本構想案の審議、策定					
	—	基本計画の検討・策定					